

ネイパル ブック ワールド 1

■ 事業のねらい

本に親しむ体験活動をととして子どもの読書に対する興味・関心を高めるとともに、関係機関と連携して読書習慣の定着を図る。



- 実施日 平成 24 年 11 月 23 日 (金) ~25 日 (日) 2 泊 3 日
- 参加対象 小学 3 年生 ~ 中学 3 年生 40 名
- 参加実績 参加者 : 55 名
 小 3 = 16 名、小 4 = 18 名、小 5 = 12 名、小 6 = 5 名
 中 1 = 1 名、中 2 = 3 名
 男子 = 22 名、女子 = 33 名
- 備考 協力 : 本の森厚岸情報館
 活動場所 : 厚岸少年自然の家、本の森厚岸情報館、
 山小屋らんぶの家

1 事業実施の背景



北海道教育推進計画において、「テレビやインターネットなど、様々な情報メディアの普及や子どもたちの生活環境の変化、さらに幼児期からの読書習慣の未形成等を背景として、子どもの読書離れが進んでいるとの指摘がなされている。」と、子どもの読書離れの現状を示している。

それらを受け、北海道教育委員会では、「北海道子どもの読書活動推進計画」を策定し、「朝読・家読運動」を展開するなど、すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において、自主的に読書活動を行えるよう環境づくりを進めている。

しかしながら、「読書好きな北海道の児童生徒の割合が、小・中学校とも約 7 割にとどまっている」(施策評価調査)と言われており、子どもの読書への関心を高める取組を一層推進していくことが求められている。

そこで、本事業は、本の森厚岸情報館の協力を得て、ブックトークやアニメーションなど、子どもが楽しめる読書活動を体験することや、山小屋で読書することなどの非日常的な空間での読書活動をきっかけとして、子どもの読書に対する関心を高め、日常生活での読書習慣の定着を図ることをねらいとして実施するものである。

2 プログラムデザイン Aグループ (Bグループは、1泊目ネイパル泊、2泊目山小屋泊)

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
11/23 (祝)	受付 13:00~13:30 (本の森厚岸情報館に集合)					受付	開会式	図書館探検 いろんな本との 出会いが!!					移動	夕食・自由	ランプで読書! まきストーブを 囲みながら...	就寝準備 自由	山小屋泊
11/24 (土)	起床	朝食 おいしい 手作り ホット サンド!	さわやか読書 @山小屋! 秋の野山を 感じながら...	移動	昼食・自由	ミッション①	アニメーション	ティータイム 読書! おいしい飲み物や お菓子とともに...	本に親しむ遊 びリンピック	夕食・自由	ミッション②	自主活動	入浴・自由	ネイパル泊			
11/25 (日)	起床	清掃・点検 朝食	活動準備	ブックトーク 実演	ふりかえり 閉会式	解散 11:30 (ネイパル厚岸で解散)											

■ アクティビティについて



■ 意図

- 山小屋でランプの明かりの下での読書など、非日常的な空間での読書を体験するとともに、自分の読みたい本を思う存分読み、読書の世界に浸る。
- 2泊3日のさまざまな活動を共有した仲間とブックトークを実演し合うことによって、一人ひとりの読書体験に対しての共感的理解を得る。
- アニメーションの手法の一つである、絵本のページを並べ替える活動をととして、遊び感覚で本の内容に迫り、読書への関心を高めるきっかけとする。

■ 留意事項

- 各班にボランティアを配置し、一人ひとりの子どもたちの気持ちやつぶやきに気付き、時には子どもの話を聞いてあげるなど、子どもの心に寄り添える体制とする。
- 大量貸出による書籍のコーナーを研修室に常設するなど、子どもたちが思い思いに読書を楽しむことができる空間づくりに努める。

3 活動の様子



■ 活動の様子

1日目は、本の森厚岸情報館に赴き、同館図書司書川原田恵氏の指導のもと、ブックトークについて実演を通して学んだほか、図書館のバックヤードを見学しながら、図書の配架についての説明を受けた。

次に、厚岸町太田にある「山小屋らんぷのいえ」に移動。電気や水道のない非日常空間で、灯油ランプやガスランタン、ヘッドランプの明かりなどを用いて読書を楽しんだ。まきストーブで暖をとりながら、静かでひっそりとした雰囲気の中で、子どもたちは読書に浸っていた。

2日目は、朝食でホットサンドづくりを体験した後、さわやかな青空の下、朝読書を行った。冬の寒い中にも関わらず、外の広場に椅子を出したり、木に登って読書にふける参加者もあり、各自思い思いの場所を選んで本を読んでいた。

午後は、ネイパル厚岸に移動し、絵本のページを並べ替えるアニメーションや読み聞かせのほか、本の重さ当てや言葉探しなどの読書をテーマとした「遊びリンピック」を実施。参加者は、どの種目も楽しんで活動していた。夜は、3日目のブックトークに向けての準備を進めた。

3日目は、全員が輪になって座り、ブックトークを実践した。2泊3日にわたり、さまざまな読書活動を共に体験してきた仲間同士ということもあり、和やかな雰囲気のもと、それぞれ自分のお気に入りの本を紹介した。

■ 参加者の声

- 山小屋で読書したのが楽しかった。
- 読書ゲームでは、絵本なのに並べ替えるのが難しかった。でも、全部並べ替えができてうれしかった。
- ブックトークは原稿をしっかりと準備できたので、意外と緊張しなかった。

4 事業評価



■ 参加者の変容【IKR調査結果】

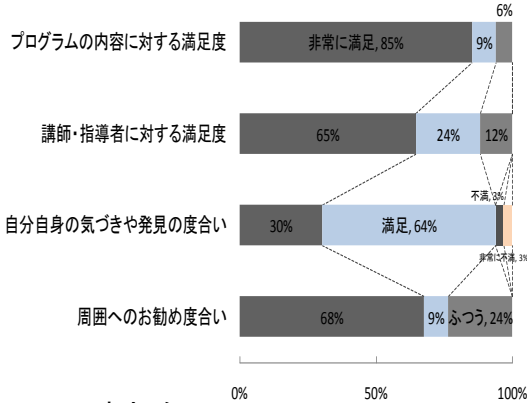
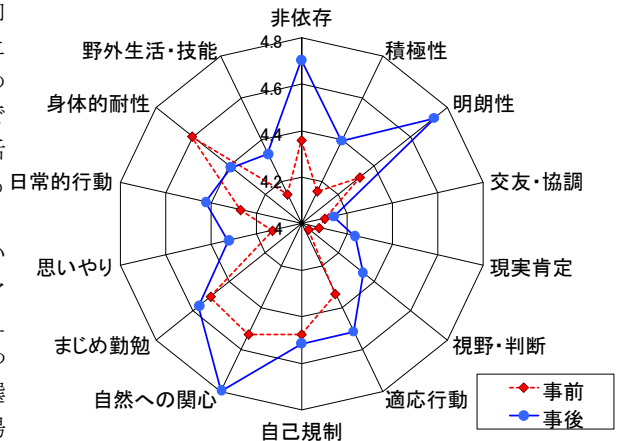
全体としては、5.6ポイントの向上（有意差あり）。特に心理的・社会的能力は3.6ポイント向上した（有意差あり）。

最も大きな変容を示したのは、「明朗性」「非依存」が0.4ポイントであった。続いて「視野判断」「自然への関心」は0.3ポイントの向上が見られた。

■ 結果の分析・考察

「明朗性」、「非依存」の向上については、長時間にわたる読書によって自己と見つめ合ったことや、非日常空間である山小屋での読書などの活動が充実していたことによるものと考えられる。

「視野判断」の向上については、ブックトークのテーマを自分で設定し効果的に伝える工夫をしたり、長時間にわたる自由読書の場の設定や選書など、自主的に判断する場面が多かったことによるものと考えられる。



5 まとめ



■ 成果

- 山小屋「らんぷの家」を利用したことや、ネイパル厚岸での閲覧空間を工夫したこと、さらにゲーム感覚での読書活動を取り入れたことにより、もともと読書好きな参加者はもちろん、どちらかといえば読書好きではない参加者も、読書を楽しむ機会とすることができた。
- 本の森厚岸情報館の協力により、選書やブックトークなど、プログラムの質を高め、活動を充実させることができた。

■ 課題・今後の方向性

- 参加者の興味や関心を高める体験活動と読書を関連付けることによって、読書習慣の定着を図るために、更なるプログラムの質的向上を目指していく。
- IKR調査結果から、「身体的耐性」の数値が唯一減少していたことから、読書という室内の活動が多くなりがちなる事業においても、少年自然の家の特色を生かしてプログラムを工夫し、「生きる力」を総合的に育てていきたい。